

# 昭和三年二月廿三日の淺間山噴火報告

長野測候所

淺間山は昨年十月十二日噴火後格別異常なかりしが本年二月廿三日十六時四十五分突然噴火をなす、追分支所の觀測によるに當日は早朝より山頂雲に覆はれ噴煙の狀況不明なるも爆發の程度は昨年のものより遙かに強烈にして噴煙は淺間山の約二倍半迄昇騰す、當時西南西の風強く（九米内外）ために噴煙は直に東方に流る從つて噴石灰等は火口附近を除く外縣下には降らずに至らずして濟み、十七時五分には早や平常の噴煙量となれり、而して噴火に伴ふ音響は一回にしてドンと大砲の如くにして可成強く空氣振動もあり、引續きゴクゴクと云ふ地鳴を伴ひたるも十六時四十八分に至り全く歇む爆音及噴煙の量は昨年のものに比し約二倍位にして追分に於ける氣壓は當日午前六時六六九耗六なるも十四時には夫れより五耗二下降し、噴火當時は十四時より尙一耗二位低下せり此日の最低は二十時過に起り六六二耗五を示し氣壓遞減の折に噴火せしものにて噴火と共に自記晴雨計は一・〇耗の急昇を示し約五十分の後平常に復せり。

噴煙は遠く長野よりも望見し得たりしが爆音や空振は認めざりき、されど六十倍のウキヘルト地震計

には十六時四十五分三十八秒七より明かに微動を感じ最大全振幅は〇・〇二耗を記象す、追分の百倍の微動計には噴火一分半位前より微動起りて最大全振幅は〇・二耗に出顯す。

噴火に伴ふ音響の聞えし區域は縣下に於ては淺間山を中心として約三十五軒に及ぶも空氣振動は二十五軒以下にして南北佐久、小縣の全部及埴科郡の一小部分に限れり、是を細別するに音響及空振の最も強かりし區域は淺間山を起點として西は十軒を越えざるも南方は二十軒に及び東は輕井澤より國境峠町を越ゆる北佐久郡の北部大半と南佐久郡の北部とを含めども是れがために戸障子の外れや破損せしもの認められず弱き音響と戸障子に微振動を與へたる地方は上記南北佐久の南半と小縣の大部分にて埴科郡にては松代附近の一小區域に限られたる如し。(別表參照)

噴火に因る地動は微弱にして僅かに南佐久の青沼、切原附近、北佐久に於て追分、伍賀、小縣郡にて西内附近に感じたるのみにて大部分無感の所多かりき、尙二月二十九日より三月一日に亘り深瀬技手が淺間山麓を踏査せし報告によるに噴火に因る被害の大なるは群馬縣長野原町字二度上部落を中心として南は國境より北は栗平邊迄三哩許の地域にて上信國境平附近は積雪の上には僅かに痕跡を認むるも熔岩の落下により屋根の破壊せし所少からず茅にて造れる雪避けは約三十間程焼失す、それより北に進むに従ひ降灰砂の量も多く黑色の灰砂礫を以て一面に蔽はれ約一坪當り四升位にて不定形の大小石塊は一坪に付平均四、五個にて大なるもの徑六、七寸のものあり。

二度上部落の土尾三之助の話に噴石は頭上高くヒュー／＼飛散し又衝突する音を聞き周章屋内に逃げたりと、降石は約四、五分にして歇むも灰砂は稍遅れて降始め四十分位にして止み焼石のため亞鉛便利瓦の屋根は悉く打抜かれ天井を貫き床板迄落ちたるありと、噴石は東方幾何の距離迄降りしか不明なるも二度上部落より二里半を隔つ川浦小學兒童が負傷せし等新聞に傳へあればそれ以上の距離にも及びたるらしく二度上附近の被害程度は大正九年十二月廿六日のものより遙かに大にして昨年十月十二日の降灰は相當あるも被害は今回のものに比しては問題ならず。

之を要するに淺間の噴火は昨年七月より九月迄淺間火山觀測所に備付けし微動計に三百七十餘回の噴火性微動を興へたる程にて今回の噴火は遇然の事にあらざるが如くこの二月は今迄の統計上より見ても噴火回数多き時期に當るが今回の如く噴火地震を長野の地震計に迄感じたるは近年珍しく又音響波に因る空氣振動を山麓可成の廣區域迄傳へたるも特記すべき事なり。

淺間山爆發に因る音響、空振、地震程度調査

場所	音			響		地震		記事
	有無	程度	回数	何に似たるか	空氣振動	有無	回数	
南佐久郡川上	有			一山鳴	障子小振			
南相木								
北相木								

小諸	川邊	芦田	春日	本牧	布施	五郎兵衛 新田	伍賀	岩村田	三井	北佐久郡 志賀	前山	中込	野澤	内山	切原	田口	白田	青沼	畑八	海瀬	北牧	
有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有
弱	微	微	稍強	微	微	微	強	可成強	微	強	微	弱	強	強	強からず	強	弱		相當強			
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
遠雷	遠く大砲	遠く雷	火薬石を遠方に 割てきく				大砲	大砲	風	強風	障子	障子	障子	障子	大砲	大砲	大砲	大砲		遠雷		
稍強し	障子幾らか振ふ		感ぜざる程度				微障子振	戸障子振	障子微振	障子微振	障子微振	障子強振			有	有	有	有		有	有	
							有								有		有					
															微一		弱一					

丁度大石が家に衝突する様な振れ、風は猛烈な西風で煙り東方へ流れ十五分位にて全く消失

遠き爆音を聞く

川邊	浦里	青木	別所	中鹽田	東鹽田	西内	武石	和田	大門	長窪古	丸子	長瀬	神川	彌津	小縣郡野	峠町	輕井澤	追分	小沼	大里	北大井	御代田	
有			有	有	有	有	有	有			有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有
微			微	微	微	微	微	微			微	微	微	微	微	稍強	稍強	稍強	稍強	稍強	稍強	弱	強からず

一 小山鳴		一 遠き大砲	一 砲聲		一 號砲		一 遠雷			二 大砲	一 遠くの砲	一 大砲	一 大砲	二 遠く大砲	二 大砲	一 野砲
		有					有			微	戸障子振	戸障子微振	戸障子振	有		
														有		
					微一											

午後四時四十五分五十二秒音響あり引續きヨ  
一〇〇地鳴あるも二分後止む

降灰なし  
午後七時半頃の音響は相當に聞ゆ

氣付かざるもの多し

無感のもの多し

噴煙を見るのみ

